

平成29年度 授業改善推進プラン 調布市立（第一小）学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- ①「第一学校小学校学習規律について」を基に、発達段階に応じた学習規律を身に付けさせる。
- ②各教科・領域の基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。
- ③発達段階に応じた家庭学習の内容を工夫し、家庭での学習の習慣を定着させる。
- ④習熟度別指導や協力授業などを取り入れ、個に応じた指導を行う。
- ⑤毎時間の授業において、見通しをもったり、振り返りたりする活動を充実させる。
- ⑥自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、学ぶ意欲を高める指導と評価の改善・充実を図る。

【平成29年度「児童・生徒の学力向上に関する調査に」に関する調査結果分析内容】

国・社・算・理の4教科・4観点において、都の平均より国語の「関心・意欲・態度」が4.8ポイント、「思考・判断・表現」が4.2ポイント、「読む」が0.9ポイント下回っている。その他、算数の「関心・意欲・態度」で0.4ポイント、理科の「関心・意欲・態度」で0.6ポイント、「思考・判断・表現」で3.7ポイント、知識・理解で1.0ポイント下回った。正答率が低い問題から分かる児童の課題は「取り出す力」と「解決する力」である。各教科の指導において、学習のめあてを明確にさせた上で、文章や図表などから、必要な情報を判断し、正確に取り出し、中心的な情報と付加的な情報に分けさせたり、比較や関連付けをさせたりする学習を積み重ねていく必要がある。国語は、段落ごとの内容を読み取り、段落相互の関係を捉えたり、内容を的確に押さえて要旨を捉える指導を積み重ねたりすることで「読む力」を高める。社会は、問題解決的な学習をさらに充実させ、社会的事象の理解を確かなものにし、それを活用して課題を解決する力を育成する。算数は、算数的活動を多く取り入れ、数量や図形についての豊かな感覚をもたせるとともに、問題を的確に読み取り、問題解決型の学習を通して数学的な考え方が身に付くように指導を行う。理科は、体験的な学習を重視し、実験・観察の結果が実感を伴ったものとなるような手立てが必要である。また、いくつかの実験結果を関連付けて結論を導き出す力を高める指導の改善を図る。

【授業改善の方針・目標】

「主体的・協働的な学び手の育成」 ○児童の主体的な学びの実現 ○自己の考えを広げ深める対話的な学びの実現

【授業改善のための具体的な取組】

- 国語**：どの学年においても音読や漢字の書き取りに日常的に取り組むとともに、読書活動と単元の学習を結び付けて基礎・基本の定着を図る。また、用語やスキルなど教えるべき内容と考えさせる内容を整理して指導にあたる。
低学年では主語述語の関係等文章の基本や表記をしっかりと押さえ、話の順序に気を付けて文章を捉え、また自ら表現できるようにする。
中学年では段落ごとの要点を読み取るとともに、段落相互の関係に注意して表現できるようにしていく。
高学年では主題や要旨を的確に捉え、文章構成や表現の効果を考えながら表現できるようにする。
- 社会**：問題解決的な社会科学習を展開する。そのために、①くらしとの関わりがより深い教材を選定し、体験的な活動を取り入れる。②調べた事実をもとに考え、表現する活動を取り入れる。
中学年では、見学、調査などの体験的な活動を効果的に設定し、そこから生まれる児童の疑問や思いを大切に授業を展開する。地域における社会的事象を観察・調査するとともに、地図などの資料を効果的に活用できるように基本的知識の定着を図り、47都道府県の名称や位置や特色を理解できるようにする。
高学年では、具体物の提示や写真資料・VTR資料などの適切な場面での活用を通して、社会的事象を正確に捉え、課題意識を高めていく。自分の考えを記述や発表などで表現する活動を意識して設定し、互いの考えを深められるようにする。
- 算数**：少人数展開ができる良さを活かし、学習状況に応じて習熟度別指導を取り入れ、個々の実態に即した手立てがとれるようにする。特に、基礎学力の定着が不十分な児童への支援を重視する。また、算数的活動を多く取り入れ、数学的感覚を豊かにする。
低学年では、主に具体物を用いた活動を通して量感を豊かにするとともに、整数の加法・減法及び乗法の意味を理解し、繰り上がり繰り下がりの計算や九九が確実に身に付くよう、繰り返しの学習を重ねていく。
中学年では、主に四則計算の意味とスキルを確実に身に付けるとともに、分数・小数の意味や表し方を理解する。また、整数の乗法が確実にできるようにするとともに除法についてその意味を理解し、問題に応じて適切に計算を用いることができるように多様な考え方を学び合う学習を大切にいく。
高学年では、主に分数・小数の乗法・除法が確実にできるようにその意味を理解し、問題に応じて適切に四則計算を用い、それらを組み合わせて答えを求めるなど、既習事項を生かしながらよりよく学び合う学習を積み重ねる。
- 理科**：問題解決型の理科学習を展開する。どの学年においても、実感を伴った理解を図ることを大切に、体験活動を通して、科学的な見方や考え方を養ったり実験器具の扱い方を身に付けたりする。また、観察や実験から得られた事柄を整理したり考察したりする中で、考えを深め合う活動を大切に。また、実験においては安全に留意させ、理科に対する興味・関心を高める。
中学年では、主に様々な観察・実験の中で比較したり関係付けたりしながら調べる視点を学び、科学的なものの見方の素地を養うようにする。
高学年では、主に現象の要因や規則性について考え、条件制御したり推論したりしながら確かめる力を養っていくようにする。また、自分の考えを図や表を用いて表現し、交流できるようにする。
- 生活**：具体的な活動や体験を通して、自分と身の回りの人々や自然、社会とのかかわりについて気付いたり考えたりできるようにする。また、その気付きや考えを言葉や絵、動作など様々な表現方法で表していくようにする。
- 音楽・図画工作・家庭**：基礎基本の定着を図るために、学習過程での交流や作品を鑑賞し合う場を大切に、言葉や絵、演奏など様々な表現方法を用いて自分の思いや考えを説明する活動を取り入れていく。
- 体育**：授業を基礎・基本から見直し、児童の運動に対する興味・関心を高め、学び合う楽しさを味わわせる。体力テストの結果を踏まえ、コーディネーショントレーニングを取り入れながら、特にボールの基本的な扱い方を丁寧に指導する。

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- ・1年間に行う4回の研究授業を通して、講師の方々から御指導・助言いただいたことを日常の授業に生かし、その成果を児童に還元していく。2学期に実施する、児童の意識調査の結果や、校内研究に対する内部評価を踏まえ、より良い授業改善の方法を考える。
- ・管理職による授業観察を5～6月と9～11月、1月～2月に行い、参観後に評価を授業者に伝え指導を行う。また、OJTとして授業者は授業日時を職員室黒板に掲示し、教員同士が互いの授業を見合い、学び合う場としても機能するようにする。
- ・12月に実施する学校評価は、内部評価とともに外部評価も行い、結果を次年度の授業改善に活かしていく。

平成29年度 授業改善推進プラン（小学校）

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<p>本校では、これまでの取り組みを継承し、ねらいにせまるための言語活動を予め設定し、その言語活動を遂行するのに必要な言葉の力を習得できるような授業の指導計画を立てるようにしてきている。具体的には次の4点の工夫があげられる。</p> <p>①言語感覚を養うための学習活動の工夫・・・各学年の実態に応じて言葉を自ら使えるような日常の取り組みを大切に。調布市のステップアップワークや教科書巻末の言葉のページを積極的に活用することとしている。</p> <p>②自分の考えをもつための学習活動の工夫・・・児童が自分の考えをもつ拠り所となる事柄を収集し整理できるようにする。また、各授業時間内に書く活動を取り入れ、書くことにより考えをもてるようにしたり、更に考えを深めたり広げたりできるようにしている。</p> <p>③相手に伝わるように話したり聞いたりするための学習活動の工夫・・・授業の中で、児童相互が意見を交換できる学習活動を意図的に設定する。ペア、グループ、全体など交流のあり方を場に応じて工夫する。</p> <p>④自分の考えをまとめたり深めたりするために書くことを取り入れた学習活動の工夫・・・学年の発達段階に応じて、いろいろな文種で書くことの基礎・基本をつかませ、安心して書く活動に取り組めるようにする。</p>	<p>以下の3つの領域【話すこと・聞くこと】、【書くこと】、【読むこと】と共に、【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】について、「概ね満足できる」状況を目指す。具体的には、各単元、1授業時間内に設定したB規準に全員が到達していることを目指す。</p> <p>【話すこと・聞くこと】どの学年も、「自分と友達の違いに着目して話したり聞いたりすること」を本校共通の重点指導事項として取り組む。その際には、各学年の指導の重点を踏まえて目的意識や相手意識をもちながら話したり聞いたりすることができるようにする。授業の中での交流の時間を意識的に設けるようにし、そこでも話すこと・聞くことスキルを学べるように心掛ける。その際、全校共通の話型を生かすことで、友達との考えと自分の考えとすり合わせができるように留意する。</p> <p>【書くこと】書くことを児童の思考を深めたり広げたりする活動として位置付ける。自分の考えが明確になるよう、主述の関係、文の構成や段落、語や語法を意識してまとまりのある文章を書けるようにする。</p> <p>【読むこと】音読をどの学年でも重視し、目的に応じて本や文章を選んで読むようにする。また文章の解釈については、常に叙述を根拠にして読み取ることができるようにする。物語文の読解では、1年生から6年生まで「丸ごと読み」を取り入れていく。</p> <p>【伝統的な言語と文化と国語の特質に関する事項】我が国の歴史の中で創造され継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ、実際に言葉の使い手となれるような語彙を増やしたり、言語感覚を養ったりすることができるようにする。</p>	<p>・様々な文章に触れたり、話し合い活動を充実させたりすることにより主体的・対話的で深まりのある学習の更なる充実を図ることが必要である。</p> <p>・朝の「読書タイム」が定着し、すすんで本を読み、優れた表現に対する興味関心の高まりが見られた。</p> <p>・「書く」学習活動に重点を置いた授業を展開することにより、自分の考えを明確にするとともに、基本的な文章の書き方が身に付いてきた。</p> <p>・「話す・聞くこと」については、「声のものさし」や「ハンドサイン」の活用により、声の大きさを考えながら自分の考えを伝えたり、相手の意見の良さや違いを意識しながら聞いたりできるようになってきている。「〇〇さんの意見に付け足して・・・」や「〇〇君と違って・・・」など、友達の考えに関連付けた発表の仕方は、1年生からの積み上げにより定着している。また、発達段階に応じて、スピーチやプレゼンテーション、ディベート等に取り組むことにより、目的と相手意識をもった伝え方が身に付きつつある。</p> <p>・日々の漢字テストを含め、漢字の学習に意欲的な児童は多いが、習った漢字を文や文章で使うことが不十分である。また、平仮名書きや誤字も多い。</p>
社会	<p>①問題解決的な学習を展開する・・・学習問題を「つかむ」⇒課題を「追究する」⇒学習問題に対する自分の考えを「表現する・まとめる」という問題解決的な学習の基本的な流れで学習を進める。</p> <p>②社会的事象を比較・関連・総合させて再構成する学習活動を工夫する・・・学び合いや体験的活動を意図した学習活動を設定し、理由を明確にしながら意見交換し、考えを深める。</p> <p>③調べたことや考えたことを表現する学習活動を工夫する・・・調べたことやそこから考えたことを、単元の特質に応じたまとめ方で表現させる。</p> <p>④自分の考えをもち、それを表現する土台を作るための工夫をする・・・「資料提示の工夫」「発問の工夫」「指導と評価の一体化」を図る。</p>	<p>以下の4つの観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】社会的事象に関心をもち、それらを意欲的に調べ、社会の一員としての自覚をもってよりよい社会を考えようとする。</p> <p>【社会的事象に対する思考・判断・表現】社会的事象から学習問題を見出して追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。</p> <p>【観察・資料活用】社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。</p> <p>【社会的事象に対する知識・理解】社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。</p>	<p>・見学や体験活動を学習に取り入れ、児童の主体的な学習意欲や問題解決的な学習につなげることができた。</p> <p>・問題解決的な学習の学習過程を意識して授業づくりに取り組んだことで、児童が問題解決の見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができた。</p> <p>・調べて分かったことをもとに考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合いお互いの考えを深めていく学習を展開することにより、児童の考えたことを表現する力が高まりつつある。</p>
算数	<p>①問題解決型の学習過程（問題把握⇒自力解決⇒集団検討⇒まとめ）により、自ら考え表現する楽しさを味わわせる。</p> <p>②考えなくなる、伝えなくなる教材や問題提示の工夫・・・教材や問題提示の仕方を工夫し、児童の主体的な学びを引き出す。</p> <p>③数学的表現方法を身に付け、使えるようにするための指導の工夫・・・言葉・図・式を関連付けて説明する場を設定する。数学的表現を洗い出し、系統的に指導する。</p> <p>④振り返り場面での指導の工夫・・・学習感想は段階を踏んで価値付け、話し合いによりよりよい算数的価値を追求していく。</p>	<p>以下の4つの観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【算数への関心・意欲・態度】数的事象に関心をもち、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、すすんで生活や学習に活用しようとする。</p> <p>【数学的な考え方】日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。</p> <p>【数量や図形についての技能】数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。</p> <p>【数量や図形についての知識・理解】数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。</p>	<p>・各学年の習熟段階に応じた習熟度別指導や、適切な課題設定により、児童の主体的な学びを引き出すことができた。</p> <p>・既習事項や数学的表現を活用して、自分の考えを説明する学習活動を設定することにより、算数的思考力の高まりが見られる。</p> <p>・基礎的・基本的な知識及び技能の定着については、学年が上がるにつれて個人差が大きくなる傾向にあるため、引き続き個に応じた指導が必要である。</p>
理科	<p>①問題解決的な理科学習を展開する・・・問題解決的な理科学習の基本的な流れである[予想⇒実験・観察⇒結果⇒まとめ]（中学年）「問題設定⇒予想⇒観察実験⇒結果⇒考察⇒結論・活用」（高学年）で学習を進める。</p> <p>②問題を見出しやすい事象提示の工夫・・・児童の興味・関心が高まるような教材を開発する。また教師は学習のねらいを明確にした指導計画を立案する。発達段階や学習内容に応じて、観察・実験の計画を立てさせることで、主体的に考える力が高まるようにする。</p> <p>③結果を捉えやすいように視覚化する工夫・・・学習の流れや児童の発言内容を分類・整理しながら提示する。板書の工夫、ICTを活用することで、科学的な見方や考え方を養えるようにする。</p> <p>④観察・実験し分かったことや考えたことを表現する学習活動の工夫・・・分かったことや考えたことをモデル図や文章を用いて表現させる。また、「表現⇒説明」と捉え、説明する際に、論理的に説明するための話型や、科学的な言葉等についても活用させる。さらに、自然事象が実際の生活の中で、どんな役割を果たしているのかについてつかませ、自分なりにまとめさせることで、「実感を伴った理解」を十分なものとする。</p>	<p>以下の4つの観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【自然事象への関心・意欲・態度】自然事象に関心をもち、それらを意欲的に調べ、自然事象や事物についてすすんで考えようとする。</p> <p>【科学的な思考・表現】自然の事物や現象から学習問題を見出して追究し、予想や考察、活用場面での科学的に考えを適切に表現している。</p> <p>【観察・実験の技能】実験条件の選定や観察の視点を明確にもち、適切に結果を記録している。器具を正しく使用し、観察・実験を行っている。</p> <p>【自然事象に対する知識理解】自然の事物や現象について性質や働き、規則性を具体的に理解している。</p>	<p>・課題⇒予想⇒実験⇒結果⇒考察の流れで指導できた学習においては、見通しをもった実験や観察の活動ができた。</p> <p>・既習事項や生活経験に基づいた予想や仮説を立てる授業を展開した。そのことにより実感を伴った理解の一助となった。</p> <p>・学び合いを重視した観察・実験を充実させたことにより、結果から分かったことや考えたことを表現できる児童が増えた。また図や表を書いて考えをまとめる児童も多くなり、意見交換も活発になった。</p> <p>・実験器具の扱いについて、教員の指導の仕方・児童が扱う際についての決まりを徹底させることができた。理科支援員との連携を密にすることで今後さらに安全に学習を進めていきたい。</p>
音楽	<p>・歌唱指導では、発声法について、腹式呼吸を意識させるように、いろいろな方法を用いる。母音は口をはっきり開けて、子音は意識して、歌い出しの歌詞を意識させる。</p> <p>・二部合唱では、丁寧に音とりをし特にアルトを繰り返し練習する。</p> <p>・合唱、合奏では、自分のパートを演奏するだけでなく、音の重なりを意識した指導をする。</p> <p>・5年は連合音楽会で演奏し、また他校の演奏を聴き鑑賞し交流する。</p> <p>・6年は運動会で鼓笛の演奏、音楽鑑賞教室でオーケストラを鑑賞し、豊かな表現をめざし、経験を積む。</p>	<p>以下の4観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【意欲・関心・態度】授業に積極的に取り組み、意欲的に自ら考え演奏し表現できる。</p> <p>【感受の能力】学んだ音楽のしくみと、自らの経験を豊かに演奏し表現することができる。</p> <p>【創造的な技能】学んだ技能を生かし、正確に演奏できる。</p> <p>【鑑賞の能力】鑑賞の活動を通して曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くことができる。楽曲の構造を理解し聴くこと。感じ取ったことを言葉で表すことができる。</p>	<p>・6年生は運動会での鼓笛演奏に取り組み、行事に向かって表現活動の技術も高まり、音楽を楽しむ雰囲気であったが、その楽しさを持続させていくことが課題である。5年生は11月の連合音楽会に向けて意欲をもって取り組む姿勢がみられる。</p> <p>・リコーダー・鍵盤ハーモニカ・発声の技術は、基本を大事にし、きれいな音を出せるように取り組んできた。継続していきたい。音楽理論を学習する際、ピアノを習っているなど音楽の経験の有無によって、楽典の理解に大きな差ができてしまった。意欲的に学習できるよう興味を持てるような指導を心がけたい。</p>
図画工作	<p>主体的な造形活動を通して、豊かな情操を養い、健全な人格の形成を目指す。そのために、</p> <p>①各自の考えに応じて材料や表現方法やテーマなどを選ぶことができる楽しい題材を工夫する。</p> <p>②言語活動や鑑賞活動など児童相互が関わり合う学習活動設け、自分の思いを広げたり考えを深めさせたりして、より豊かな表現活動につながるようにする。</p> <p>③失敗を恐れず試行錯誤ができるような、材料と時間を用意する。</p> <p>④発達段階に合わせて基礎基本の指導を積み重ねていく。</p>	<p>以下の4観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【意欲・関心・態度】表現や鑑賞することに関心をもち、すすんで造形活動を楽しもうとする。</p> <p>【発想構想の能力】題材名や材料やテーマなどから自由に発想したり、これまでの経験や身に付けた技能や自分の考えを生かして構想したりする。</p> <p>【創造的な技能】表したいことに合わせた道具や方法や材料を使い、工夫して表す。</p> <p>【鑑賞の能力】自他の作品や美術作品などの特徴や意図をとらえ、よさや美しさなどを感じとり、自分なりの見方で味わおうとする。</p>	<p>・11月の校内展覧会で様々な人に自分の作品を見てもらうことを意識し、ほとんどの児童が意欲的に取り組み、自分なりに頑張って仕上げ、満足感を得ている。</p> <p>・児童の自由な発想を生かしてテーマを決めたり、既習経験から方法を選んだりするなど、自分で決めて工夫する部分を多く設けているので、主体的な活動につながっている。</p> <p>・表現活動の前後や途中で鑑賞活動を設け、感じたことや考えたことを言葉で表現する機会を増やし、互いのよさや違いを認め合い、自己肯定感を高めることができるようにする。</p>

<p>体育</p>	<p>体力テストの結果、全体的に東京都の平均を下回っている。特に、投力・柔軟性・瞬発力の数値が低かった。体力テストの結果を踏まえ、児童の体力向上の図るために以下の具体的な取組を行う。</p> <p>①ゲーム・ボール運動の領域で、ボールの投げ方や体の使い方などの基本的な事項を指導する。</p> <p>②全校で縄跳びや持久走に取り組み、持久力や瞬発力などの向上を図る。また、鬼ごっこやダンスなど児童に親しみのある運動遊びを定期的に企画し、運動の日常化を図る。</p> <p>③体育科の授業の準備運動などでコーディネーショントレーニングを取り入れながら神経や体幹に意識を向けて取り組ませる。</p> <p>④発達段階に応じた学習カードを用いて、自己の目標達成に向け工夫して活動をさせる。</p> <p>⑤お互いに励まし合ったり、教え合ったりして、関わりを深めながら、技能を高めるような学習活動を工夫する。</p>	<p>以下の3つの観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【技能(運動)】低:簡単なきまりや活動を工夫して、運動が楽しくできるとともに、運動の基本的な動きを身に付けることができる。</p> <p>中:各種の運動の楽しさに触れ、運動の基本的な動きを身に付けることができる。</p> <p>高:各種の運動の楽しさや喜びに触れ、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。</p> <p>【態度】低:誰とも仲良くし、安全に気を付けて意欲的に運動をすることができる。</p> <p>中:協力・公正などの態度を育てるとともに、最後まで努力して運動をすることができる。</p> <p>高:協力・公正などの態度を育てるとともに、課題解決に向けて、すすんで運動をすることができる。</p> <p>【思考・判断】低:それぞれの運動の動き方を知り、楽しく運動ができる場や行い方を選ぶことができる。</p> <p>中:運動の動き方や動きのポイントを知り、自分に合った課題を選ぶことができる。</p>	<p>【技能(運動)】動きのポイントが視覚的に分かるような学習カードや掲示物を用いて、習得につなげることができた。ポイントの精選が要因として考えられる。今後も学習カードや掲示物を整理して、誰でも使いやすい環境を整えていく。</p> <p>【態度】グループ学習を取り入れ、児童同士が教え合ったり、励まし合ったりしながら学習をすすめることができた。また、学習したことを休み時間や放課後に自主的に取り組む児童が見られた。</p> <p>【思考・判断】発達段階に応じた学習カードを用いたことで、自己分析する力や課題解決する力が少しずつ身に付いてきている。</p> <p>・全校縄跳び・持久走においては、児童が意欲的に取り組んでいた。授業の準備運動などで継続的に行うことで、走力、持久力、瞬発力の向上につながっていくと考える。次年度は、投力を高める取り組みを強化していきたい。</p> <p>・運動領域に応じた単元計画を同じ流れにしていくことで、児童に学習の見通しをもたせながら、主体的な課題解決学習へとつなげていく必要がある。(アクティブラーニング)</p>
<p>家庭科</p>	<p>・児童が課題意識をもちながら日常生活と関連させて理解できるように、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れるなど題材を工夫する。</p> <p>・調理実習や被服製作は少人数グループやペアで行い、一人一人が確実に技能を習得できるように学習形態を工夫する。</p> <p>・家庭生活の中の衣食住や家族の生活などについての様々な言葉を実感を伴って理解する活動を行う。自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの自分の思いや考えを説明する活動を取り入れる。</p>	<p>以下の4つの観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【家庭生活への関心・意欲・態度】衣食住や家族の生活について関心をもち、家庭生活をよりよくするためにすすんで実践しようとする。</p> <p>【生活を創意工夫する能力】家庭生活について見直し、生活をよりよくするために自分なりに考えて工夫をしている。</p> <p>【生活の技能】家庭生活に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【家庭生活についての知識・理解】日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p>	<p>・家庭生活に関心をもち、普段の生活の中でも料理に挑戦したり、裁縫を行ったりする児童が増えてきた。長期休業中は家庭での実践を行わせた。</p> <p>・意欲はあるものの学んだことを活用したり、自分の生活に置き換えて工夫を行ったりするという点にまだ課題がある。</p> <p>・繰り返し学習することにより、技能は習得されつつあるが、個人差があるので個別に支援をしていく必要がある。</p> <p>・学習したことを理解はしているが、生活経験が少ないので更にいろいろなことを体験できるように授業内容の工夫をしていく。</p>
<p>生活科</p>	<p>①児童が興味関心をもち、自ら積極的に取り組む学習を展開する。・・・「何を引き出し、何を育てるか」という児童の側に立った学習指導を展開する。</p> <p>②気付いたことを膨らませ、発展した気付きへ高める支援の工夫・・・活動の楽しさを味わわせ、没頭する中での気付きを見取り、適切な支援により気付きの質を高める。</p> <p>③様々な方法で表現する学習を展開する。・・・自らの学習を想起し、言葉・絵・動作・劇化などで表現し、児童相互が豊かに交流できる場面を設定する。</p>	<p>以下の3つの観点について、全員が「概ね満足できる」状況を目指す。</p> <p>【生活への関心・意欲・態度】身近な環境や自分自身に関心をもち、すすんでそれらとかかわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。</p> <p>【活動や体験についての思考・表現】具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。</p> <p>【身近な環境や自分についての気付き】具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。</p>	<p>・1年の「あさがお」2年の「ミニトマト」の栽培では、毎朝の水遣りや定期的な観察を続けることで、その成長を喜ぶとともに、自分で育てた植物への愛着をもち、大切にしようとする気持ちが養われた。毎日世話を続けた自分自身の成長を実感する様子も見られた。</p> <p>・1年「昔遊び」2年「おみせやさんごっこ」では、自分なりに考え工夫した活動ができるとともに、豊かな気付きをもつことができた。</p> <p>・相手と交流し考えを伝えあうという点については、伝えるためにはどのような話し方・接し方が必要なのかを考えさせる実践ができた。中学年・高学年につながる指導を目指し、継続して児童に意識して働きかけていく必要がある。</p>